

千葉県菌類談話会通信

Chiba Mycological Club Bulletin

	ページ
目次：会長挨拶.....	2
採集品紹介	
千葉県でニオウシメジ発生.....	3
シビレタケ属のキノコが発生.....	3
短報	
地域の図鑑としての地方博物館.....	3
催し物案内.....	4



ナラモタシ
 山中ノ朽株ニ生ス蓋
 黄赤色簇々トシ生ズ禰
 ト柄トシ間ニ鏝アリ味鮮
 美食スルニ堪タリ

会長挨拶

会長：腰野 文男（千葉県立中央博物館）

このたび、キノコなど菌類を通して自然に親しみ、菌類の採集等の各種の催し物を開催する目的で千葉県菌類談話会が発足致しますこと、皆様と共に喜び申し上げます。

自然がゆたかな千葉県では、昔から海岸林や里山でキノコを採集し利用してきました。キノコを探して山野を散策したり採ったキノコを食べたりすることは健康のためにとってもよいせいもあるのでしょうか、近年益々キノコに関心をもたれる方々が増えてきているようです。千葉県内の博物館を例にとりましても、菌類の観察会・同定会・講習会を催すたびに、人気が高いせいか申込数が定員をオーバーし、係員が調整に苦慮すると聞いております。このようにキノコなど菌類に興味を持っている方々は意外に多く、千葉県におきましても他県のような菌類の同好会の設立が待望されていました。

談話会では、キノコなど菌類の採集・同定会・スライド上映会等各種の催し物をいろいろ計画していきたいと思っています。今回お届けする「菌類談話会通信」は第一号ですが、今後このような通信等を通して会員の皆様にキノコなど菌類についての情報や催し物などをお知らせしていきたいと思っております。地方のキノコなど菌類についての情報を御持ちの方はふるって会の方にお寄せ下さい。会の情報誌でもあるこの談話会通信が、会の活動共々一層充実していくことを切望してやみません。

表紙：ナラタケ *Armillaria Mellea* (Vahl.: Fr.) Kummer 坂本浩然 著「菌譜」1835年

ナラタケは食用にされ美味なこと、多量に採れることから、昔から食用にされてきたキノコでありその方言も多い。ナラモクシ（青森）の他、オリミキ（山形）、ボリボリ（北海道）、ナラセンボン（埼玉）等多数である。最近の研究*によると日本産のナラタケは少なくとも6集団の存在が認められるそうである。浩然の菌譜は江戸時代の菌類学が実用的な本草学を脱し、本格的な純粋博物学ともいうべき領域に達していたことを示すものである。

*長沢ら（1991）

採集品紹介

八千代市でニオウシメジ発生

やや古い話ですが、1989年10月八千代市村上の川島敬さん宅の梨畑に大きなニオウシメジが発生しました。合計5株程発生し、そのなかの一つの株(約20kg)を10月19日千葉県立中央博物館に寄贈して頂き、トラックで博物館まで運びました。梨畑にする前は竹林でしたが数年前に切り開いたときに、竹を多量に埋めた跡に発生したそうです。ニオウシメジとは仁王占地の意で今関六也先生の命名です。アジア・アフリカの熱帯を中心に発生し、1912年にインド産のものが記載され *Tricholoma giganteum* Masee と命名されました。日本では1981年に熊本県、種子島、沖縄産の標本により日本新産としてはじめて紹介されました*。本種が千葉県で確認されたのは今回が初めてと思われます。現在博物館の冷凍庫の中にはっており、その一部の凍結乾燥品は博物館の新着菌類資料展(1991年5月28日-6月23日)で紹介しました。全体乾燥後は株状のものを展示する予定ですが、凍結乾燥器の大型のものが必要となりそうです。

*Nagasawa, E. & Hongo, T. 1981. 日本菌学会報 22: 181-185.

シビレタケ属のキノコが発生

1990年11月22日千葉市みつわ台でシビレタケ属のキノコが磯田会員により採集され、博物館まで届けられました。日本産の本属の菌は現在9種知られているにすぎませんが、今回の種は青変性であること、胞子の大きさが小型であること等からおそらくアイソメシバフタケと推察されます(博物館で仮登録番号No.3111で保存)。千葉県で本属が確認されたのは今回が初めてではないでしょうか。本属のキノコは催幻覚性の菌としてよく知られた種で、バリ島でマジックマッシュルームとして観光客に人気のキノコも本属で、メキシコで宗教儀礼にもちいられる「テオナナカトル」(アステカ語で”神の肉”の意)にもこの属が数種含まれているそうです。本属に含まれる幻覚をおこす物質はシロシピンで、現在は国により規制物質の対象となっており、青変する性質も本物質によります。本属のヒカゲシビレタケをこころみた例ですが、時間や空間、視・聴覚的な感覚が麻痺し、ものすごい覚醒作用と効果があります。もちろん有毒とされ、本種を食べたある人は心臓が破裂する幻覚を体験し救急車で病院に運ばれました。世の中にはいろんなキノコがあるものです。

短報

地域の図鑑としての地方博物館

千葉県に本格的な自然誌系の博物館として千葉県立中央博物館が誕生して3年目で

す。地域の自然に関することを調べたい人にとって、いつでも大きな図鑑的な役割を果たすのが地方の博物館の使命の一つではないかと考えられます。当博物館はそのような要求に答えていくという意図から、千葉県を中心とした自然誌資料を収集、保存、整理を活動の軸に置いています。しかし現在のところ若い博物館ということもあり基本的な基礎資料となるものが大変少ないのが現状です。特に、植物や動物の分野に比較し菌類関係は図鑑が完備していない、分類が進んでいない等の理由により、これまで蓄積された房総地域の情報は限られたものでありました。

このような自然誌関係の基礎資料を収集していくためには当クラブのような存在が重要です。当クラブのような同好の士から寄せられた情報や写真や標本をもとにこれから房総の菌類に関する基礎資料を充実させていかなければなりません。そのための資料を収集する拠点として博物館を機能させていきたいと考えています。

例えば、

- *キノコに関する情報を整理し提供する
- *標本を収集し整理し保管する
- *千葉県のキノコ図鑑を作成する
- *映像等（テレビ画像－ハイビジョン画像）による図鑑を作成する

以上のようなことを実現するために、キノコの名前の調べかた、標本の作り方、図鑑・テレビ図鑑のための写真撮影の方法などを学習する場をつくっていきたくと考えています。いつでも、どんなものでも地域の要求があれば答えることのできる施設として博物館をつくっていきたくと考えています。

催し物案内

1. 採集会

千葉菌類談話会発足後第一回の催し物を開催致します。ふるって御参加下さい。

場所：千葉県房総風土記の丘（別紙地図をご覧ください）
日時：1991年7月28日（日曜）午前10：45－午後3：00（解散）
集合場所：房総風土記の丘資料館入口付近、午前10：45集合
内容：キノコ採集（午前）と同定会（午後）
連絡：談話会事務局（当日、8:00A.M.までは吹春自宅 Tel.0472-61-0004）
持物：昼食、採集可能な服装
交通：JR成田線（我孫子線）安食駅から千葉交通バス：竜角寺車庫行、 風土記の丘北口下車、徒歩5分で房総風土記の丘資料館
*参考：千葉交通バス10：15安食駅発、10：20風土記の丘北口着

*なお9月下旬には本郷次雄先生（滋賀大学名誉教授）を招いての採集会を計画しています。

2. 講座の案内

1991年度千葉県立中央博物館の「菌類分類学講座」といたしまして、以下のような講座を予定しております。参加希望の方は、講座開催日の一ヶ月前から2週間前までに往復葉書で中央博物館まで御申し込み下さい。

- 第1回 9月22日 コウジ菌類の利用とカビ毒の生産性について
講師：堀江 義一（千葉県立中央博物館）
- 第2回 9月29日 ハラタケ目の分類について
講師：本郷次雄（滋賀大学名誉教授）
- 第3回 12月1日 地衣類の分類について
講師：原田 浩（千葉県立中央博物館）
- 第4回 2月2日 カビによる人間の病気について
講師：西村和子（千葉大学真核微生物研究センター教授）
- 第5回 2月11日 最近の酵母の利用とその分類について
講師：中瀬 崇（理化学研究所主任研究員）
- 第6回 2月16日 カビによる食品汚染と食品衛生につて
講師：宇田川 俊一（千葉大学真核微生物研究センター客員教授）
- 第7回 2月23日 食品工業に利用されている菌類について
講師：高田 正樹（東洋醸造株式会社リサーチセンター生物工学研究所）
- 第8回 3月22日 カビによる魚の病気について
講師：畑井 喜司雄（日本獣医畜産大学教授）

3. スライド大会

12月下旬に、懇親会もかねたスライド大会を計画しています。会員の皆様の美しい写真を期待しています。

事務局から

談話会の資料を初めて配布しましたのは、去年の風土記の丘の採集会でした。会の発足がおくれましたこと、大変申し訳ございません。今回はとりあえず第一回の採集会のご案内ということで通信を発行いたします。この通信は不定期の発行となりますが、会員の皆様の投稿や話題提供などの量と相関をもった発行量になっていくことと予想されます。

*私の自慢する採集記録、採集地

*私にとってのキノコとは？

*キノコに関する質問

*キノコのスケッチ

*その他キノコ・菌類に関するものなら何でも

会員の皆さんの投稿お待ちしております。

"Why?" said the Caterpillar.
Here was another puzzling question; and, as Alice could not think of any good reason, and the Caterpillar seemed to be in a very unpleasant state of mind, she turned away.
"Come back!" the Caterpillar called after her. "I've something important to say!"



千葉菌類談話会通信 No. 1

1991年6月20印刷、発行

事務局：千葉県立中央博物館 植物科吹春俊光

千葉市青葉町955-2

電話：0472-65-3111 Fax：0472-66-2481